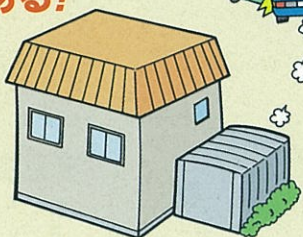
A 事故はまれな出来事ではない!

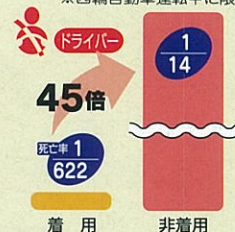
●ドライバーは毎年、全国で約60人に一人という高い確率で人身事故の当事者になっています。

A 「すぐそこまで…」でも事故の危険がある!

●死亡事故の大半は、運転開始後間もなくの30分前後に発生しています。

A 非着用者は死亡率が高い!

●シートベルト非着用のドライバーの死亡率は着用者の約45倍、助手席の非着用者では着用者の10倍以上、後部座席の非着用者でも約3倍にのぼります。

■シートベルト着用有無別の死亡率

※四輪自動車運転中に限る

※死亡率…死者数を死傷者数で割り返したもので、たとえば1/622というのは死傷者622人につき一人の死者が発生しているという意味

A 避け切れない事故もある!

●四輪自動車運転中の死者の4人に一人は、いわゆる「もらい事故」によるものです。

A ゆっくり走っていても安全とはいえない!

●四輪自動車乗車中の死者の大半は、時速60キロ以下で発生した事故によるものです。

※このチラシの事故データは、原則として、全国・平成20年以前の3年間の平均概数に基づいています。

後部座席の着用率は非常に低い…

■一般道でのシートベルト着用率

※平成21年10月、警察庁・日本自動車連盟（JAF）合同の全国調査による

	着用率
ドライバー	96.6%
助手席同乗者	90.8%
後部座席同乗者	33.5%

(財)鳥取県交通安全協会鳥取地区協会
鳥　取　警　察　署

子どもを守れるのはチャイルドシートだけ！

■幼児の半数近くが非着用、
5歳児の着用率はわずか3割…

※平成22年、警察庁・JAF合同調査の結果による

大人の責任、忘れないで…

抱っこでは支え切れない！

●たとえば、時速40キロで車が衝突したとき、その車に乗っている子どもは体重の30倍もの力で投げ出されるため、いくら大人が強く抱っこしていても支えることはできません。

シートベルトでは危険！

●体の小さな子どもがシートベルトをすると、衝突の瞬間に体がベルトをすり抜け、車の天井に頭をぶつけたり、ベルトが首に引っかかる危険があります。

※シートベルトの適用身長は135センチ程度以上です。

車内事故が少なくない！

●カーブ走行中や急ブレーキ時に座席から子どもが転落し、ケガをする―という車内事故が少なくありません。

安全運転の妨げになることも…

チャイルドシートを着用させないと
子どもが車のなかで動き回り、
それに気をとられるなどして、
安全運転の妨げになることがあります。

チャイルドシートは正しく取りつけなければ効果なし！

1 後部座席に取りつける

●助手席エアバッグが装備されている車の助手席に、特に乳児用シート（後ろ向きシート）を取りつけると、事故でエアバッグが展開した際、子どもが甚大な傷害を受ける危険があります。

2 しっかり固定する

●チャイルドシートの取りつけ方は製品によって異なりますので、取扱説明書に従って取りつけましょう。

●特に前向きのシートの場合、シートの上部に手をかけて前方向に力を加えても大きく動かない（3センチ以下が目安）ように固定することが重要です。

子どもの体格に合ったシートを選びましょう！

※年齢・体重・身長は目安で、製品によって多少異なります。

◆**乳児用シート**
新生児から1歳ころまで
体重10キロ未満用
（身長70センチ程度まで）

◆**幼児用シート**
1歳から4歳ころまで
体重9〜18キロ以下用
（身長65〜100センチ程度まで）

◆**児童用シート**
4歳から10歳ころまで
体重15〜36キロ以下用
（身長135センチ程度まで）

国土交通省の認証マークがあるチャイルドシートを選びましょう！

UNIVERSAL（注1）
○－○○Kg

04○○○○
当該装置番号

（注1）「SEMI－UNIVERSAL」、「VEHICLE－SPECIFIC」または「RESTRICTED」と表示されている場合もある

（注2）当該装置を認可した国番号（43は日本）

2000／01
UNIVERSAL（注3）
○－○○Kg

C－○○○○
指定番号

（注3）「SPECIFIC VEHICLE」または「COMPATIBLE」と表示されている場合もある

㊐C－○○○
指定番号

C－○○○
認定番号